



2019年6月7日 ~ 2019年6月14日

2019年6月18日

先週の回顧

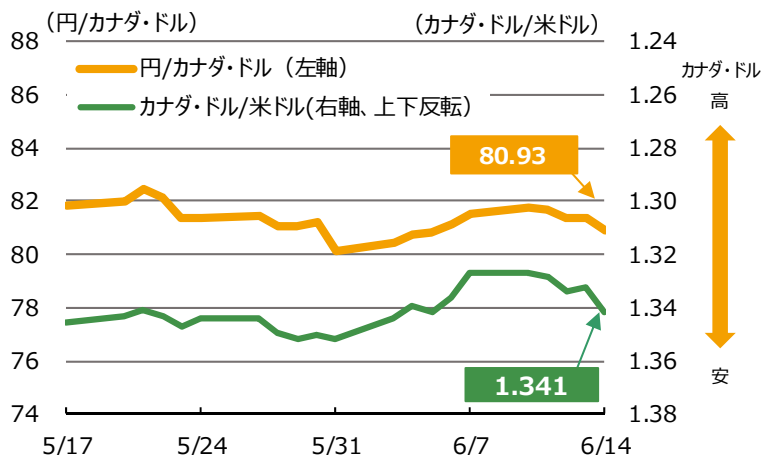
カナダ・ドルは、対円で下落しました。また、カナダ5年国債利回りはおおむね横ばいとなりました。

米国がメキシコに対する追加関税導入を無期限停止し、貿易戦争懸念が後退したため週前半はカナダの金利は上昇しました。週後半は、米国内債利回りの低下に連れて上昇幅を縮小しました。カナダ・ドルに関しては原油価格が軟調に推移したことを背景に対円で下落しました。

経済指標では、住宅関連の指標が複数発表されており、住宅建設許可金額に関しては、市場予想を上回る結果になりました。

カナダ・ドル 為替推移

(2019年5月17日~2019年6月14日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

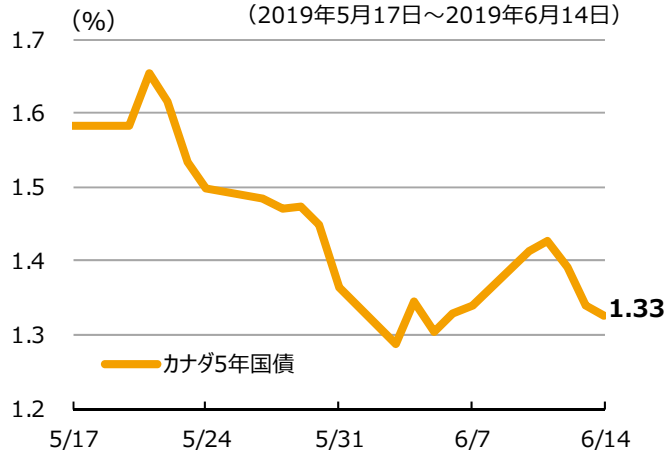
今週の見通し

今週、カナダではCPI（消費者物価指数）、小売売上高の発表が予定されています。小売売上高の市場予想値は前月の堅調な数値からの反動がマイナスとなって現れていないため、個人消費は引き続き堅調を維持していることを織り込む内容となっています。

また、米国ではFOMC（米国連邦公開市場委員会）の開催が予定されており、政策金利据え置きの見方が大勢になっています。足元では利下げ期待が高まっているため、声明文において今後の政策金利の方向性についてどのような言及がなされるかに注目が集まります。

カナダ 金利推移

(2019年5月17日~2019年6月14日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。